東京未来大学

研究推進ニュースレター

Vol. 14

東京未来大学
研究推進委員会
2021 年 8 月 31 日発行

1. 科研費ニュース

令和 3(2021)年度 東京未来大学の科研費採択状況(表 1)とテーマ(表 2)は以下のとおりです。平成 30(2018)年度から今年度(2021)までの 4 年間の採択状況の推移(図 1)から，総じて，基盤研究(C)の採択件数が増えています。

表 1 令和 3（2021）年度 科研費採択状況

	件数	金額（円）	備考
基盤研究（C）	11	30,160,000	新規 3件，平成 29（2017）年度以降継続 8件
若手研究	4	13,780,000	新規 1件，平成 30（2018）年度以降継続 3件
若手研究（B）	1	2,300,000	平成 29 （2017）年度より継続
挑戦的研究（萌芽）	1	4,300,000	平成 30 （2018）年度より継続
合計	17	50,540,000	

※金額は直接経費

表 2 令和 3（2021）年度 科研費採択テーマ一覧 *2021 年度新規採択

			（共同研究者）
		基盤研究（C）	
*	及川 留美	「地域への親しみを育む」保育実践を可能とする評価モデルの作成	
	大橋 恵	青少年期のスポーツ経験による潜在的スポーツ観の違い	
*	川口 めぐみ	大人の言語刺激がこどもの行動形成に与える影響－0歳から5歳の発達段階と行動分析－	
	執行 智子	中学校教員の専門を生かした小学校英語指導法のシラバス開発－CLILを活用して―	
	鈴木 哲也	学校における動物飼育の歴史的・倫理的・法的課題と展望	
	鈴木 公啓	歩きスマホ防止を目指した歩行時の頭部角度と心理状態に関する研究	真家 英俊
*	髙橋 文子	教師教育における「芸術知」の方法論的解明－表象と感性の融合を図るプログラム開発－	
	藤後 悦子	発達に課題がある子どもへのチームスポーツ指導プログラムの開発とその評価	大橋 恵・井梅 由美子
	柳生 崇志	幼児教育・保育の無償化は沖縄の子育て環境・教育の貧困化対策として機能するか？	小林 祐一
	山崎 善弘	姫路藩領における綿業の展開と領主権力・地域社会	
	横地 早和子	芸術創作プロセスにおけるずらしと省察の関係からみる創造的な熟達過程の解明	
		若手研究	
*	大村 美菜子	産後女性の化粧行為による機能変化	
	埴田 健司	風評被害の維持・抑止に関わる心的メカニズムの検討	
	仲嶺 真	成人期未婚者のライフコースにおける恋愛の位置づけと支援可能性の検討	
	野中 俊介	認知行動療法的観点における機能の変化がひきこもり改善プロセスに及ぼす影響	
		若手研究（B）	
	西村 実穂	事業所内保育所における防災に関する研究－災害時行動計画モデルの検証－	
		挑戦的（萌芽）	
	日向野 智子	潜在保育士の保育士就労促進に対する職場の人間関係と社会的スキルトレーニングの効果	磯 友輝子・藤後 悦子・角山 剛・高橋 一公・山極 和佳

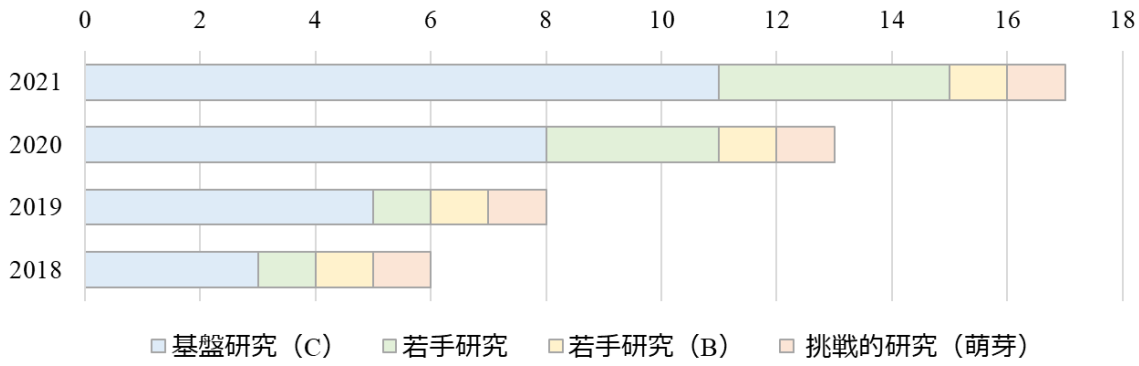


図 1　平成 30（2018）年度からの採択状況の推移（件数）

2. 令和 3（2021）年度 新規科研費採択者の研究紹介

今年度，科研費を新規で採択された 4 名の先生の研究テーマと内容をご紹介します。

こども心理学部　大村美菜子

Q１　採択された研究テーマと概要，具体的研究方法や研究計画について教えてください。

研究テーマは，『産後女性の化粧行為による機能変化』です。多くの女性にとって出産は，生活スタイルが子ども中心に変化するなどアイデンティティを大きく揺るがす重要なライフイベントです。その中で産後に行う化粧は，わずかな時間ながら，自分らしさを確かめるための貴重な機会になっているものと思われました。本研究で産後の化粧行為の実情やそれに伴うメンタルヘルスを検討することで，研究成果をもとに化粧教室など出産後の社会参加のきっかけづくりや産褥期うつ病の予防としても活用できるものと考えています。具体的研究方法としては，第一に化粧行為の実態や意識を把握するため，産後 1 年以内の経産婦を対象に予備調査を実施し，第二に予備調査で得られた回答をもとに具体的な化粧行為の過程や意識の変化を把握するめ経産婦のインタビュー調査を行い，第三に化粧行為の動機およびメンタルヘルスを検討するため，経産婦 500 名を対象に調査を実施するという計画です。

Q２　研究計画調書作成にあたって，工夫された点などアドバイスをお願いします。

作成にあたり工夫した点としては，学術的背景や研究の目的について論理的にわかりやすく示すという点は当然ですが，それに加えて本研究の学術的独自性や関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけに関して，なぜこの研究がいま必要なのかを丁寧に記述するよう努めました。具体的には，産後女性における容姿や化粧行為の動機について検証した研究は現在のところ国内外において存在しないため，その点を強調しました。それに加え，絵や図表を必要個所に提示することによって視覚的にも必要性を訴えるよう心掛けました。

Q３　研究の進捗はいかがですか？今後の展望についてお聞かせください。

研究の進捗状況としては，第一の研究計画である化粧行為の実態や意識を把握するため，経産婦 200 名を対象に予備調査を実施した段階です。結果としては，産後の化粧行為への不満足感はかなり高い一方で，化粧行為自体には幸せを感じていることがわかりました。これらの結果をもとに今後は第二の研究計画である具体的な化粧行為の過程や意識の変化を把握するためのインタビュー調査を準備中です。また将来的な展望としては，研究結果をもとにして化粧教室などを実施し，お母さんたち自身の自己実現をサポートできたらと思っています。

こども心理学部　及川留美

Ｑ１　採択された研究テーマと概要，具体的研究方法や研究計画について教えてください。

研究のテーマは「『地域への親しみを育む』保育実践を可能とする評価モデルの作成」です。現在保育研究の分野では「保育の質向上」の議論が活発にされています。保育の質を向上させるためには，各保育施設が保育の実践について自己評価をし，実践に生かしていくことが重要です。しかし，保育施設が使用している自己評価項目を見てみると，大きなカテゴリーが項目化されているにすぎず，現場の保育者が実際の保育実践に結びつけることは難しいと感じました。そこで，今回の研究では，保育実践の中でも「地域への親しみを育む」実践に焦点を当て，保育施設に対する質問紙調査と実践現場のフィールドワーク記録から，より具体的な評価モデルを作成することを目的としています。

Ｑ２　研究計画調書作成にあたって，工夫された点などアドバイスをお願いします。

一言でいうならば「失敗に学べ」です。この研究については前年も申請をしています。結果は不採択でしたが，その際に出される評定要素ごとの平均点および所見を分析しながら，研究計画調書を作成し直しました。自分たちの研究に何が足りないのか，どこが審査委員に伝わらなかったのかなどを考え，調書を修正しました。　みなさんも不採択でもあきらめずに申請を続けてください。

Ｑ３　研究の進捗はいかがですか？今後の展望についてお聞かせください。

他大学の研究者との共同研究になりますので，現在は定期的にオンラインで打ち合わせをし，研究を進めています。この研究の進捗における一番の不安要素は，新型コロナウイルスの感染状況が今後どうなるかということです。日本各地の保育施設でフィールドワークの実施を予定していますので，早く収束することを願っています。

こども心理学部　髙橋文子

Ｑ１　採択された研究テーマと概要，具体的研究方法や研究計画について教えてください。

研究課題名は「教師教育における『芸術知』の方法論的解明―表象と感性の融合を図るプログラム開発―」基盤研究（C），令和 3 年度から 4 年間の取組みになります。「芸術知」とは，芸術に関する知識のみに限定されない，情意を喚起する方法論的認識と捉えています。教員養成課程で学ぶ学生だけでなく，学び直しを必要とする現役の教師も対象としていて，特に，生活感情と結び付きを重視した 10 のトピックをコア実践として構造化する構想です。

Ｑ２　研究計画調書作成にあたって，工夫された点などアドバイスをお願いします。

図画工作科，美術関係の教育内容の体系化が進まない背景として，造形要素に無自覚で方法論の認識がなされていないという問題や，経験していないことは教えられず，次世代を担う子ども達を育てる教師として適正を欠く問題等を強調しました。例えば「見立て」や「想像的視点」，「斜めの線（が示す遠近法）」等，身近なトピックから内容的，過程的，形式的各方法論を繋げてわかる美術を目指しています。各トピックに関する認識の実態調査とそれらに合わせたプログラム内容を精査していく予定です。科研申請は毎年出すことに意義がありという感覚でしたので，採択されてとても驚いています。一昨年の所澤先生や藤後先生等の事例を交えたお話が役立ちました。あせらず研究を継続なさってください。

Ｑ３　研究の進捗はいかがですか？今後の展望についてお聞かせください。

今年度の予定である「芸術知」に関する文献調査，及び 10 のトピック及びアンケート調査内容の検討を進めていますが，無理がきかなくなってきたのが悩みの種です。

こども心理学部　川口めぐみ

Ｑ１　採択された研究テーマと概要，具体的研究方法や研究計画について教えてください。

テーマは「「大人の言語刺激がこどもの行動形成に与える影響―0歳から5歳の発達段階と行動分析―」です。保育者がこどもとかかわるとき，その大半は言語的かかわりです。ポジティブな行動をとったこどもにはポジティブな言葉をかけ，保育者にポジティブな言葉をかけられればこどもはその行動を取り入れ，その行動は増加していきます。保育の中に溢れている保育者の言葉は，こどもの学習や行動を形成する直接的な刺激となっていますが，保育者の専門性について問うとき，保育者の言葉かけについて検討した研究はほとんどありません。そこで本研究は，保育者の言葉とこどもの行動の関連について行動分析学的に検討し，保育の専門性の一つとして，こどもの学習や発達にふさわしい刺激（言葉）を選択する知識とスキルの重要性について提案していくものです。

Ｑ２　研究計画調書作成にあたって，工夫された点などアドバイスをお願いします。

保育の質向上に貢献する研究ですが，保育学のみならず，発達心理学や行動分析学などの領域を取り入れ，保育と心理の理論を融合させた実践的研究であることを軸にまとめました。また，計画書全体をデザインするという感覚をもち，読み手が最後まで読みやすいと思えるよう，視覚的，認知的負荷が少なくなるよう工夫しました。

Ｑ３　研究の進捗はいかがですか？今後の展望についてお聞かせください。

今年は乳児を対象にデータを集めています。本研究結果から，こどもにとってうれしい保育者がひとりでも多く増えるよう，保育者・教育者養成に貢献する一つの方法を発信できたらと思っています。

3. 特別企画　こども環境学会賞「論文・著作奨励賞」&「優秀ポスター発表賞」

著書で受賞された内容について，こども心理学部 藤後悦子先生に伺いました。

W 受賞!!

Ｑ１　受賞された書籍のタイトルと内容について教えてください。

スポーツで生き生き子育て＆親育ち―子どもの豊かな未来をつくる親子関係―（福村出版）

表紙を見ると，子どもの運動神経を伸ばせる本と思われるかもしれませんが，私たちは，子育ての中で大切にしたいことや社会が目指す方向性を考えるきっかけになるようにと願って書き上げました。本書の特徴は，スポーツを通して，①目の前の成果だけを求めるのではなく，「幸せ」に生きるため，社会の中で活躍するためという大きな目標を目指してほしいことを主張していること，②子育てで大切にしてほしい，子どもの発達，子どもの権利，生活習慣，遊びの重要性を取り上げていること（保育とスポーツの架け橋），③スポーツにおけるハラスメントの問題を正面から取り上げていること，④スポーツを取り巻く対人関係を取り上げていること（指導者と子どもとの関係のみでなく，子ども同士の関係，親子関係，親同士の関係，指導者と親との関係などを幅広く扱っていること），⑤海外の実践なども紹介し，幅広い視点を取り入れていることです。

今回受賞して嬉しかったことは，講評で「本書は，子どものスポーツ活動と地域社会づくりの問題を考える上では，欠かすことのできない著作である」と評価されたことです。私たちの方向性は間違ってなかったということを確認でき，自信を持つことができました。子育て中の皆さんや子どもに関わる皆さんには，ぜひ手にとっていただけると嬉しいです！！

Q２　書籍を執筆するにあたって，工夫された点などありますか。

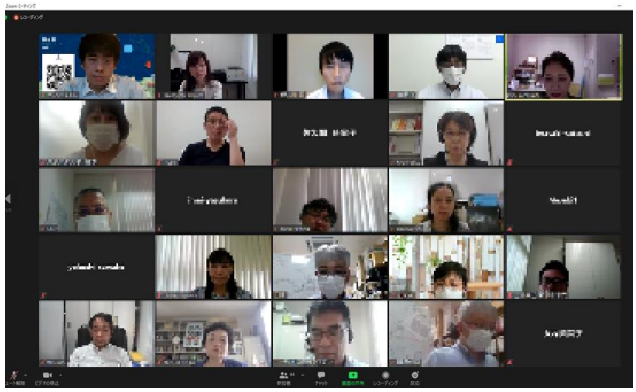
スポーツは切り口にすぎないのですが，やはりスポーツ分野での専門性も高めないといけないと考え，2 人の体育や健康教育の専門家（篠原俊明先生，泉秀生先生）にも加わってもらいました。またコラムには，少年院の中のスポーツというテーマで須田誠先生にもご執筆いただきました。各自が持つ専門性を融合した学際的な内容になったと思います。また，読みやすさを意識して，子育てで直面する問題を事例を用いながらQ&A 形式で解説し，写真やイラストを多用しています。

その他の工夫点としては，3 人のチームワークですね。外部の方と熱く語り合い仕事をもらいネットワークを広げてくる。細やかな点まで目を配って的確に全体を指示する。いつもにこやかに，そして最後の大切なチェックを丁寧に行う。これらの役割分担が板についているワンチームです！（誰が，どの役割でしょう？）。

4.　令和 3（2021）年度 研究推進委員会研修会を行いました

研究推進委員会による研修会「researchmap と連携した業績管理システムの導入に関する作業説明会」が，以下の日程で行われました。研修会の内容は，今年度から新導入したシステムの操作方法についてです。オンラインでの開催で，63 名が参加しました。

開催日：令和 3（2021）年 7 月 7 日（水）15：00～16：00
内　容：研修業績プロ操作説明会



オンラインでの研修会の様子（モザイク加工）

研修会の感想（一部抜粋）

- ✓ 一度の入力で業績データのリンクが可能とのことで，便利になると思いました。
- ✓ 今の業績管理がこのシステムで統一されることを期待しています。
- ✓ 教員側の作業で適宜データを更新できるのは便利だと思いました。
- ✓ 研究業績の保存，運用がしやすくなりそうで画期的です。
- ✓ Excel を使って一括登録を済ませてしまえば非常に楽な作業でした。researchmap との連携も楽にできるので本当に便利ですね。科研費の申請時に必要な作業だったので，本当助かりました。
- ✓ 一度入力するのは大変そうですが，その後は非常に便利そうで，いいシステムと思います。

6.　編集後記

今年度の研究推進委員会は，昨年度に引き続き小林久美委員長をはじめ，川原正人委員，田澤佳昭委員，川口と，今年度から石橋里美委員が加わった 5 名，そして陪席に佐久間さん，福本さん，三浦さんの計 8 名で運営しております。

本号の作成にあたり，限られた時間の中で記事を執筆してくださいました先生方，科研費等のデータをいただきました研究推進委員陪席のみなさまにこころより感謝申し上げます。みなさまのご協力があり，本号を発行することができました。最新号，どうぞご味読のほど，よろしくお願い申し上げます。

研究推進委員　川口めぐみ